

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 88

学校名・団体名	笠岡市立笠岡東中学校
HPアドレス	http://higashi-jh.kasaoka-ed.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	『人権』『生きること』を意識した道徳教材の工夫と開発
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>『人とのつながり』や『生きること』を大切に意識させながら、積極的に「考える」「表す」「伝える」力を重点的に育成する。申込代表者が東日本大震災以降続けてきた被災者との交流や、岡山県内で「いのち」や「生きること」の大切さを伝えながら、外国の盲学校を建設する活動を続けて映画化もされている元・盲学校教頭の竹内昌彦氏の活動などを、今後、教科化される「道徳」の時間に活用しやすいように、生の映像や資料を教材として工夫・開発し、生徒の心の深化を高め、表現力・行動力の育成につなげることを目的とする。</p>	

『人権』『生きること』を意識した道徳教材の工夫と開発

活動内容と時期

教科・領域・・・道徳・学級活動（一部、表現活動として国語科）

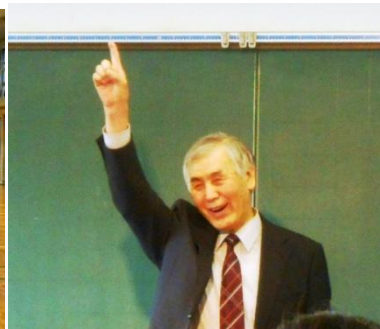
(1) ねらい

この「道徳教材の工夫と開発」は、『人権』を意識しながら、「人とのつながり」や「生きること」をじっくりと考えさせたり、生徒たちの表現力（主に「表す」「伝える」）を育成したりするための取り組みである。「道徳」の時間のみならず、学級活動（被災者との交流、あるいは掲示物の作成や写真の展示など）や国語科の表現活動など、学習全般での活動にリンクさせて発展的に活用できるように取り組む。

(2) 活動の内容（主に道徳の教材として開発したい2点）



- ① 東日本大震災以降、被災者である岩手県野田村の漁師さん（澤口氏）から地震発生後に命がけで撮影した津波発生時の生々しい映像や、その後の被害の様子や避難所での生活の写真や手記などをいただいている。その資料を活用して、支援者として『漁船福興の会』を立ち上げた詩人画家：夢発心氏の生き方や野田村安家川漁港の第1号の漁船を購入した経緯などを含め、それを、生徒たちにわかりやすく、考えやすく工夫し、道徳の映像教材として工夫し開発する。
- ② 少年期から全盲である元岡山県立盲学校教頭の竹内昌彦氏は、現在（70歳）までで2000回を超える講演会を開催し、「生きること」や「いじめ」をテーマにしたその生き様に感動し、感銘を受けた人たちが、氏の人生を映画化するというプロジェクトを立ち上げ、資金を集め役者を募り、平成27年3月に「未来に届ける映画～『見えないから見えたもの』」が完成した。岡山県内はもとより現在は日本各地で自主上映会が開催され始めている。全盲ゆえのいじめと闘った少年期や、ハンデを克服しながらの氏の生き様、そして、講演会の謝礼や著書の売り上げを生かしてモンゴルとキルギスに盲人支援施設（鍼灸の技術学校）を建設している。それらの様子をとらえた莫大な映像や資料を、本人の竹内氏や映画化した山本守監督の助言や指導を受けながら、道徳の時間にどの指導者もが活用しやすく工夫し、児童生徒に彼の生き方や「いのち」の尊さが伝わるような映像（DVD化）資料として開発する。



(3) 活動時期および実践内容

6～11月 資料（既存の映像や資料の確認・整理）①②

竹内昌彦氏、山本守映画監督との話し合い（助言・指導を受ける）②

教材化する部分の映像の選定・編集①②

10月 被災者・支援者との話し合い（澤口氏とは電話やメールが主、アトリエ夢発心を訪問）①

11月 人権週間に向けて取り組み①②

3月 映像教材を使った授業と学校内での写真の展示～まとめを生かして最終DVDの完成～①②

成果と効果

生徒に「伝えたい」というものを、わかりやすく活用しやすく教材化しまとめることで、教員だけでなく多くの指導者（社会教育の立場の方々を含める）幅広い範囲で活用し生かしてもらえ、被災地への支援の必要性を伝えたり、竹内昌彦氏の生き方を通して「生きる」ことの大切さを生徒の心の深い部分まで届けたりすることができます。貴団体、「映画を広める会」、山本守監督ほか、多くの方々に心より感謝いたします。